

支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和3年度第5回目を、京橋地域で開催しました。

1 実施日

令和4年2月1日（火）10:00～11:30

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 8名

3 内容

- ・出席者近況報告
- ・前回の振り返り（「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」の発行について）
- ・意見交換 ①「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」第1号の発行と今後について
②SNSを活用した「京橋地域」らしい情報発信について

4 出席者近況報告の要旨

地域活動の開催情報についての共有のほか、新型コロナワクチンの予約状況、新たに誕生した入船・湊エリアの意見交換会、各種事業の実施状況について話しを伺った。

5 前回の振り返り

前回の協議体では、「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」の発行に向け、掲載内容、配布先、作成頻度などを意見交換したことを確認した。

6 意見交換 ①「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」第1号の発行と今後について

前回の意見交換を踏まえ、「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる」の第1号を発行したこと、実際の配布先を報告。他に配布可能な場所や地域のサロン・イベント情報について、思い浮かぶものがあれば報告してほしいと依頼。アウトプットについては、数字で捉えることは難しく、発行を重ねることで地域へと根付くことを効果として捉えたいと説明。

上記を踏まえ、広報紙に対する地域の反応を共有後、第2号以降の発行について意見交換を行った。要旨は以下の通り。

（図1）「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」第1号の発行と今後について

- ✓ 掲示済みの掲示板もあれば未掲示の掲示板もあった。
- ✓ 区の職員より広報紙を見たとの報告を受けた。
- ✓ 実際に開催されている地域活動（リアルな情報）を伝えられると魅力的。
- ✓ コロナの影響で活動を中止している団体もある。情報を発信する際は、最新情報は主催者に確認するよう但し書きを入れるとよい。
- ✓ 引きこもりがちの方が参加するには、情報紙を渡すだけでなく、声をかけ付き添える第三者がいると参加につながるのではないかと。

意見交換 ②SNS を活用した「京橋地域」らしい情報発信について

地域のつながりづくりに向けた情報発信について、高齢者には紙媒体での発信が効果的ではあるが、SNS を活用することで家族や支援者に向けた情報発信が可能となること、画像や動画を活用することで雰囲気伝わりやすい点を共有。実際に SNS を活用してどのような情報発信が可能か、そのヒントとなる SNS を活用した情報発信の先進事例を報告。以上を踏まえ、京橋地域らしい情報発信のあり方について意見交換を行った。要旨は以下のとおり。

(図2) SNS を活用した「京橋地域」らしい情報発信について

- ✓ LINE の公式アカウントは、登録後に発信された情報がコンスタントに届くようになることが魅力的。
- ✓ Twitter は高齢者の利用も増えているが、報告にあった事例はどれも「いいね」が少ない印象。
- ✓ 広報紙とリンクさせるのであれば、更新頻度は少ないだろう。
- ✓ 1 つにツールを絞るのではなく、複数を組み合わせるのもよいのではないか。
- ✓ アカウント作成時は、どこが責任を持つのか。→社協が作成する。
- ✓ サロンやイベントの情報も大切だが、日頃の地域の様子(日常の一コマ)を発信すると、興味を持つ人が多いのではないか。
- ✓ 誰が発信するか。
→みんな(地域の人たち)で分担できるのが理想である。既に稼働している情報発信コンテンツの協力を得るのも良いのではないか。

意見交換①と意見交換②を踏まえ、広報紙を継続的に発信すること、また広報紙と連動する形で動画の作成及び公開を試行的に行うことをコーディネーターより提案。協議体メンバーの協力を得た上で、広報紙及び動画(YouTube)による情報発信を試行することとした。

7 今後のスケジュール

今回は令和 4 年 4 月下旬～5 月上旬に開催予定。

今回の意見交換を踏まえ、SNS の活用に向けた取り組みを精査する。

<参考> 意見交換の様子

